

**紋枯病の発生が県内全域で多い**  
 ～発生が多いほ場では直ちに防除してください～

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 病害虫名：紋枯病 | 2 発生作物：水稲 |
| 3 発生地域：全県  | 4 発生量：多い  |

**5 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）**

- (1) 7月22～24日に実施した巡回調査（県内100地点）における紋枯病の発病株率は4.0%（平年1.5%）、発病地点率は34.0%（平年14.9%）、要防除地点率は8.0%（平年3.0%）でいずれも高かった（表－1）。
- (2) 発生は県内全域で確認されている（図－1）。また、発病株率、要防除地点率ともに過去12年と比べ最も高かった（図－2、3）。
- (3) 7月24日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並又は高い、降水量は平年並又は多いと予報されている。
- (4) 現在の発生状況に加え、今後も病勢の進展に好適な条件が続くと予想されることから、発生が多いほ場では直ちに本病の防除対策を行う必要がある。

**6 防除対策**

- (1) 現在の発生状況を確認し、発病株率が15%を超える場合は出穂直前～穂揃期にバリダシン剤、バシタック剤、モンカット剤、モンセレン剤のいずれかの茎葉散布剤を散布する（下表参照）。
- (2) 茎葉散布剤は株元に到達するように散布する。
- (3) 粒剤を使用する場合は前年多発したほ場に限り、出穂5日前までにリンバー粒剤を4kg/10a散布する。なお、既にリンバー粒剤やモンガリット粒剤を散布した場合は追加散布の必要はない。
- (4) 粒剤を使用する場合は湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間は入水しない。また、周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。

茎葉散布剤一覧

薬剤名	希釈倍数又は使用量	使用時期
バリダシン粉剤DL	3～4kg/10a	出穂直前～穂揃期
バリダシン液剤5	1,000倍	
バシタック水和剤75	1,000倍	
バシタックゾル	800～1,000倍	
モンカットファイン粉剤20DL	3～4kg/10a	
モンカット水和剤	1,000倍	
モンカットフロアブル	1,500倍	
モンセレン粉剤DL	3～4kg/10a	
モンセレンフロアブル	1,500倍	

7 資料

表-1 巡回調査における発生状況(7月22~24日調査)

	発病株率	発病地点率	要防除地点率 <sup>※2</sup>
県北部	3.0 (1.0) <sup>※1</sup>	38.7 (10.6)	3.2 (1.5)
県中央部	0.8 (0.9)	10.0 (12.3)	0 (1.2)
県南部	7.2 (2.2)	48.7 (18.7)	17.9 (4.8)
全県	4.0 (1.5)	34.0 (14.9)	8.0 (3.0)
概評	多	多	多

※1 ()は平年値

※2 発病株率が15%を超えた地点率

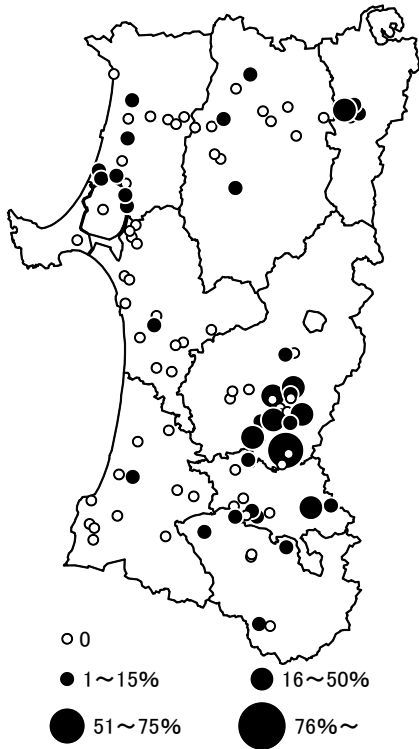


図-1 巡回調査における発病株率  
(7月22~24日調査)

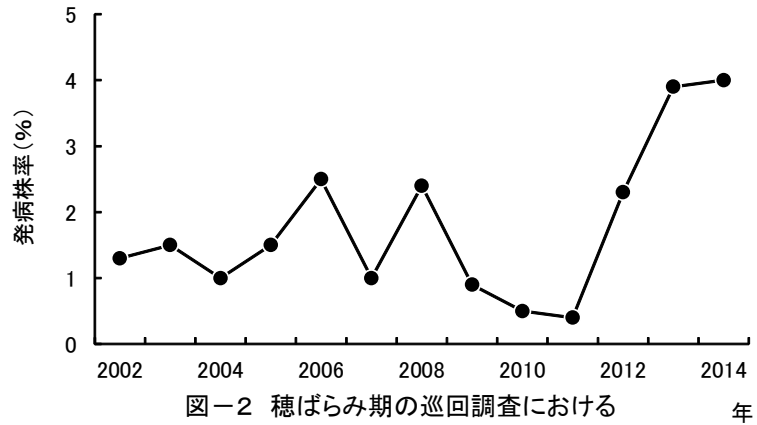


図-2 穂ばらみ期の巡回調査における  
発病株率の年次推移

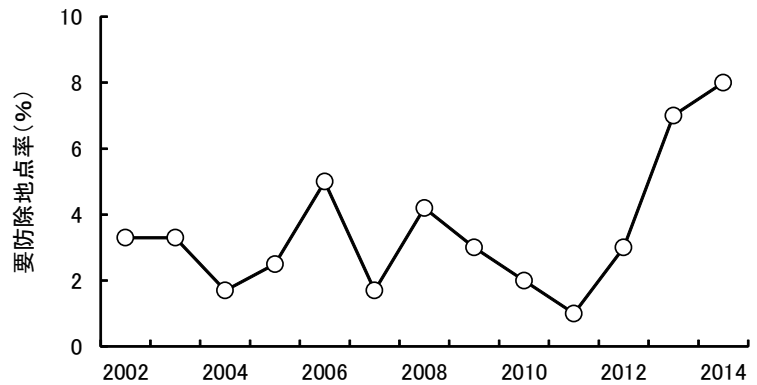


図-3 穂ばらみ期の巡回調査における  
要防除地点率の年次推移

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所                      TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場                        TEL 018-881-3327  
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>